

2015.11.27

平成27年度学術情報システム総合ワークショップ

成果報告会（2班）

平成27年度学術情報システム総合ワークショップ2班

千葉大学附属図書館 木下 直

北海道大学附属図書館 松尾 真木子

情報・システム研究機構国立極地研究所 南山 泰之

調査の背景

- NACISIS-CATの課題
理念と実態の乖離
 - 目録作成館の偏り
 - 目録対象資料の多様化



- 共同分担入力方式の見直し
NACISIS-CAT全体の運用モデルの再考
 - 書誌作成の改善
機能分担の検討、運用体制の再構築

問題意識

- これまでの提案では、NACSIS-CATの課題として、理念と実態の乖離が挙げられているが、目録対象資料や目録作成館の実態とはどのようなものか。



- 運用モデルの再考にあたり、作成書誌とその作成館についての現状把握がなされていない。

調査の目的

現在作成している書誌とその作成館の目録業務の実態を把握する。

- 作成している書誌とは
 - 1.外部MARCから流用して作成する書誌
→ 1班で省力化調査
 - 2.オリジナル書誌
外部MARCを流用せず新規で作成
BOOKの類似書誌を流用して作成
→ 本調査の対象書誌とする

誰が、どのようにして、どんな資料の書誌を作成しているか

0. 予備調査：書誌作成機能分担のシミュレーション
1. 書誌作成時間分析
2. 全体の書誌データ分析
3. オリジナル書誌データの分析
4. オリジナル書誌データの内容分析
5. 2011年アンケート分析
6. インタビュー調査によるスキル分析
7. オリジナル書誌作成の地域分析

オリジナル作成書誌のデータと作成館の実態調査

松尾

0. 予備調査

- ・書誌作成機能分担のシミュレーション

書誌作成の集中化を検証

松尾

1. オリジナル書誌作成時間分析

- ・オリジナル書誌と流用書誌の作成の時間調査

オリジナル書誌作成のコストを測る

全員

2. 全体の書誌データ分析

(2010~2014年を対象)

- ・オリジナル作成率
- ・所蔵1館の比率

オリジナル作成の比率が高い
所蔵1館の比率が高い

松尾・南山

3. オリジナル書誌データの分析

(2010~2014年, 892,494件)

- ・言語、形態別のグルーピング
- ・地域別のグルーピング

オリジナル書誌作成は集中化できるか

木下

4. オリジナル書誌データの内容分析

(2014年度作成のうち, 出版年が1987年以降, 所蔵1~5館までの日本語資料)

所蔵が少ない資料の特徴は何か

木下

5. 2011年アンケート分析

- ・自由記述意見の分析

書誌作成に必要なスキルを求める意見が多い

全員

6. インタビュー調査によるスキル分析

- ・言語、形態などの入力に特徴のある6館を訪問

書誌作成に必要なスキルとは何か

南山

7. 書誌作成のための地域ネットワーク調査

- ・事例の収集

地域単位でのスキルのネットワーク

予備調査. 書誌作成機能分担のシミュレーション

調査の目的：

作成館別の書誌作成実績から 書誌作成機能分担のシミュレーションを行なう。

* これまでの見直し案で提案されてきた「目録センター館の指定」による書誌作成の集中化について検証する。

* NACSIS-CAT外に存在する書誌データの一括登録等の実現によって、新規書誌作成の件数は減少すると考えられるが、決してなくなることがない**オリジナルカタログングについては、目録センター機能を担ういくつかの大学図書館が集中的に担う**ことによって目録の質の維持を図るとともに、メタデータ運用の実務的な経験をもつ図書館員を育成する場としても機能させ、メタデータ運用のスキルを大学図書館界全体として維持する体制を構築する。

次世代目録所在情報サービスの在り方について(最終報告)
2009年3月

試算

<仮定>

1. 参照MARCの書誌はそのまま使用できる。
2. "センター館"は現在と同じ労力を自館の書誌作成 + 他館の書誌作成に充てることが可能。
3. 参照MARC書誌からの流用作成は、ORG書誌作成を1とした場合、 α の労力を要する。
4. 参加館は"センター館"と書誌を作成しない館に2分される。
 - ORG書誌作成件数の多い順に"センター館"として他館の書誌作成を割り振る。

試算

“センター館”は省力化された流用書誌作成の労力を
全て他館のORG書誌作成に充てる。



<書誌作成量>

オリジナル書誌に換算

→ $A. \frac{\text{ORG件数} + \text{ORG以外} \times \text{係数} a}{\text{ORG件数} + 0}$ (省力化前)

→ $B. \frac{\text{ORG件数} + 0}{\text{ORG件数} + 0}$ (省力化後)

$A - B = C$ Cを余力として，他館の書誌を作成

「ORG」書誌の総数(“センター館”を除く) = “センター館”の C の総数

予備調査の試算において

$$\alpha = 0.88$$

ORG書誌作成の労力を1とした場合、流用書誌の作成に
0.88の労力を要すると仮定する



ORG書誌を

全て“センター館”で作成する場合 → **57** 館

**ORG書誌全てを“いくつかの”大学図書館が
集中して作成する案は現実的ではない。**

**作成書誌とその作成館の目録業務の実態を把握し
たうえで、運用モデルを検討する必要**

ORG書誌と流用書誌の作成に労力の差はあるのか？ → 作成所要時間を比較

1. 調査目的

- ・ 書誌を作成する際の所要時間について,外部MARCを利用した流用作成と,新規作成(source=ORG)の場合をそれぞれ調査し,比較する。

2. 調査対象

- ・ 2015年7月-10月の期間, A大学図書館で新規に作成した書誌

3. 調査内容

- ・ 流用,新規書誌作成をクリックしてから,所蔵登録を開始する前までの所用時間を計測し,調査用紙に記録。調査対象者6名の流用・新規作成記録を同数とりまとめ,作成所要時間の平均を比較

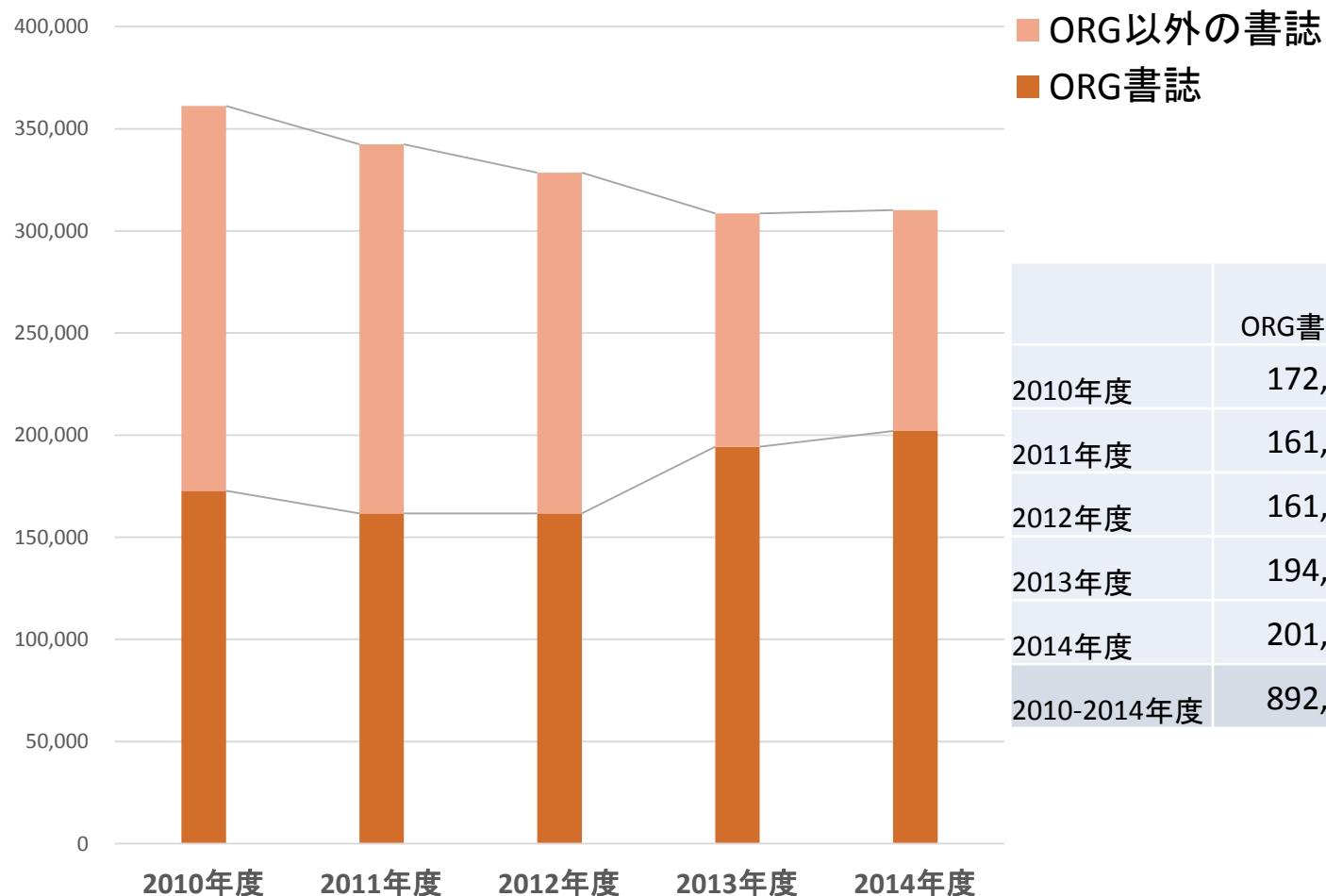
	書誌の件数	作成時間の平均(分)
ORG作成書誌 (SOURCE=ORG)	60	9.55
ORG以外の作成書誌	60	8.38

ORG書誌作成時間 : 流用書誌作成時間 = 1 : 0.88

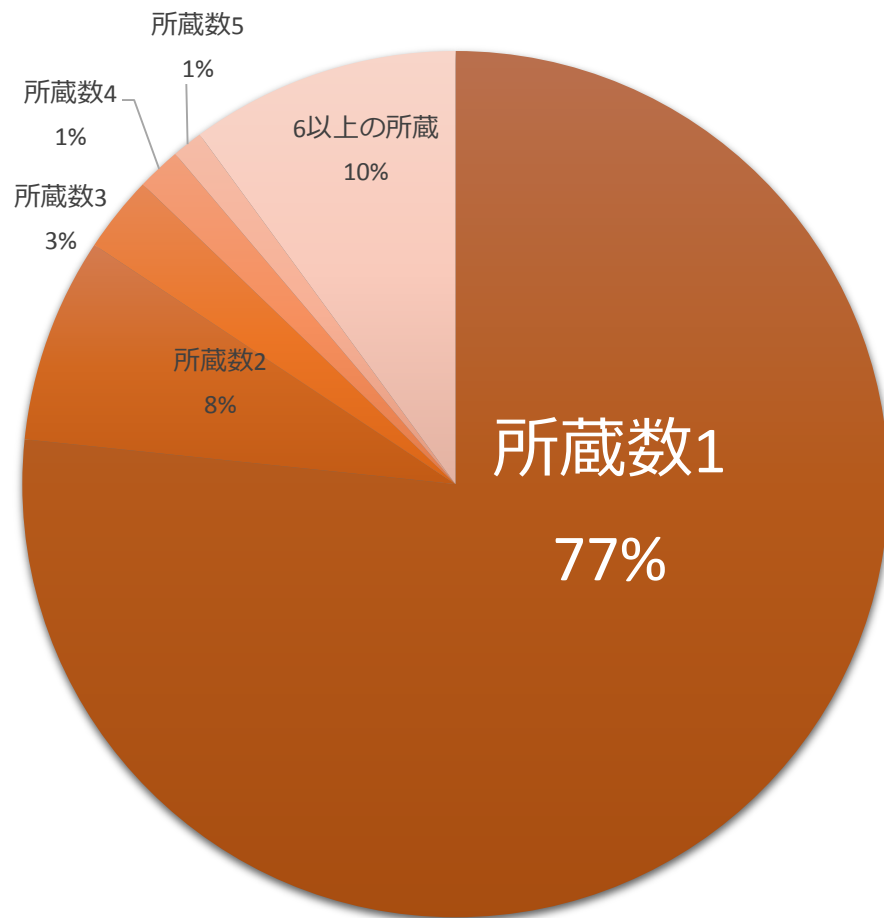
ORGで作成することだけが負担とは言えない

- 外部MARCを流用する場合は、CATのルールにあわせた書誌の修正が必要
- 書誌作成時間は流用・ORGの違いよりも、資料の内容に左右される

書誌作成の内訳 2010-2014 年度



ORG書誌に対する所蔵数 2010-2014年度

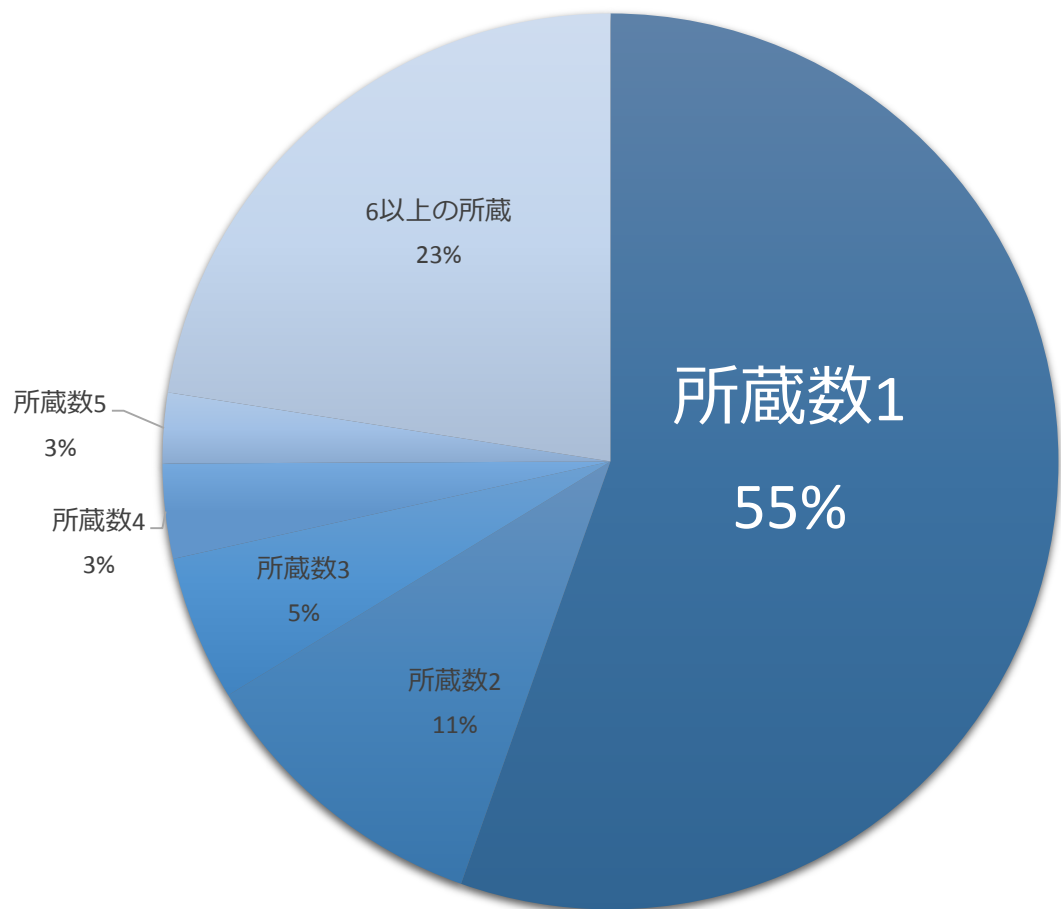


	書誌の件数	割合*
所蔵数1	648138	76.74%
所蔵数2	63779	7.55%
所蔵数3	24128	2.86%
所蔵数4	13840	1.64%
所蔵数5	9679	1.15%
6以上の所蔵	85,009	10.07%
	844,573	100.00%

* 所蔵数0(≒親書誌)を除いた割合
所蔵数0 = 47921

■ 所蔵数1 ■ 所蔵数2 ■ 所蔵数3 ■ 所蔵数4 ■ 所蔵数5 ■ 6以上の所蔵

流用書誌に対する所蔵数 2010-2014年度

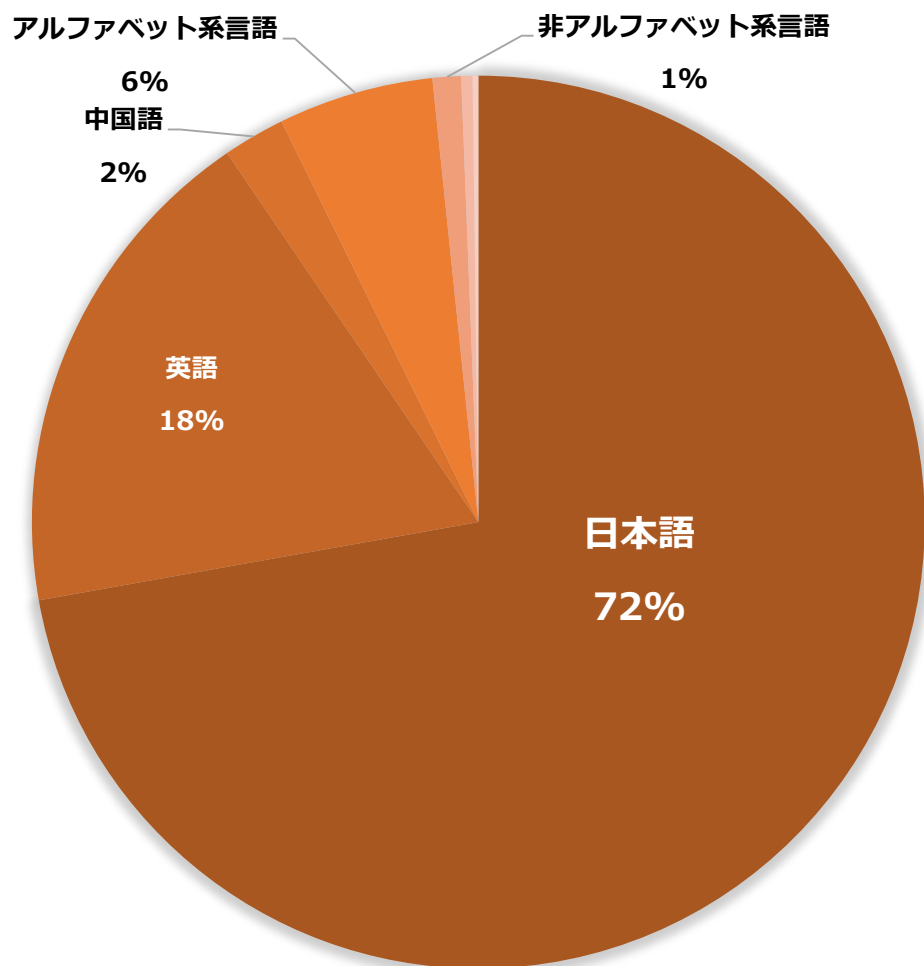


	書誌の件数	割合*
所蔵数1	405922	55.41%
所蔵数2	79480	10.85%
所蔵数3	38446	5.25%
所蔵数4	25020	3.42%
所蔵数5	18603	2.54%
6以上の所蔵	165,081	22.54%
	732,552	100.00%

* 所蔵数0(≒親書誌)を除いた割合
所蔵数0 = 25628

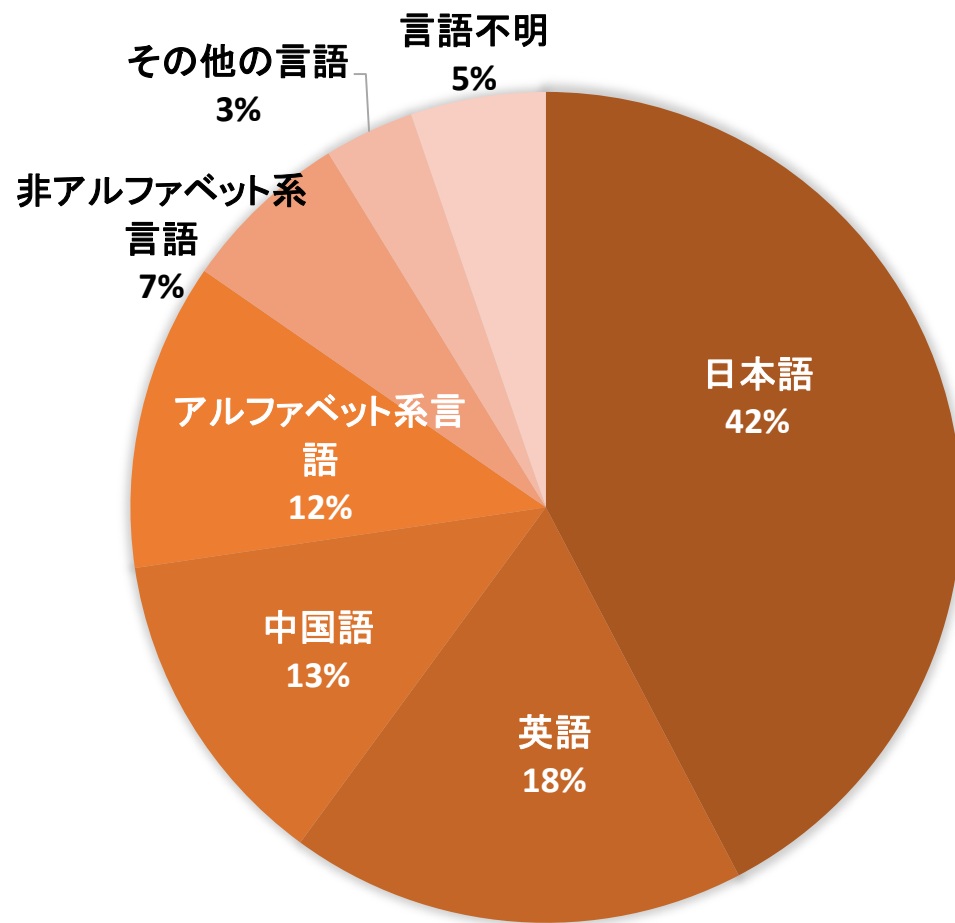
■ 所蔵数1 ■ 所蔵数2 ■ 所蔵数3 ■ 所蔵数4 ■ 所蔵数5 ■ 6以上の所蔵

言語別所蔵数：CAT全体



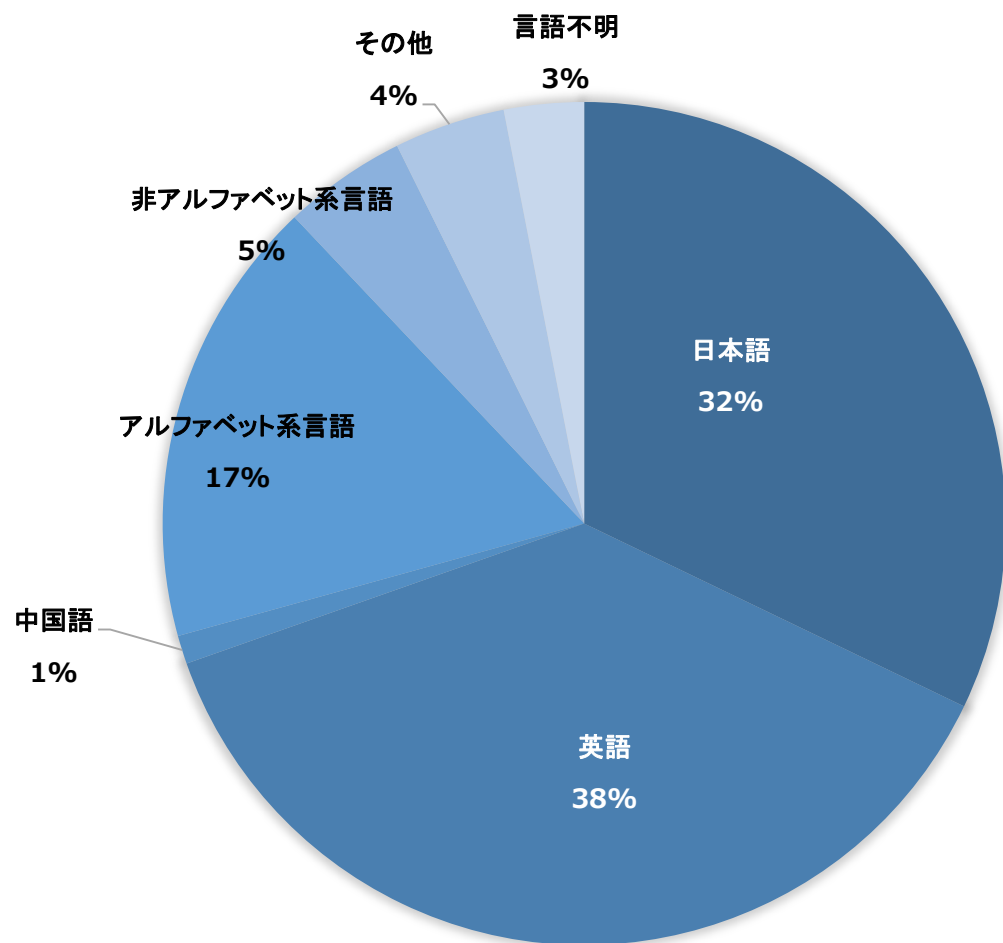
	所蔵件数
日本語	90,924,723
英語	23,029,578
中国語	2,831,927
アルファベット系言語	7,081,110
非アルファベット系言語	1,296,718
その他	514,805
言語不明	261,177
記入なし	365,955

ORG書誌(言語別) 2010-2014 年度



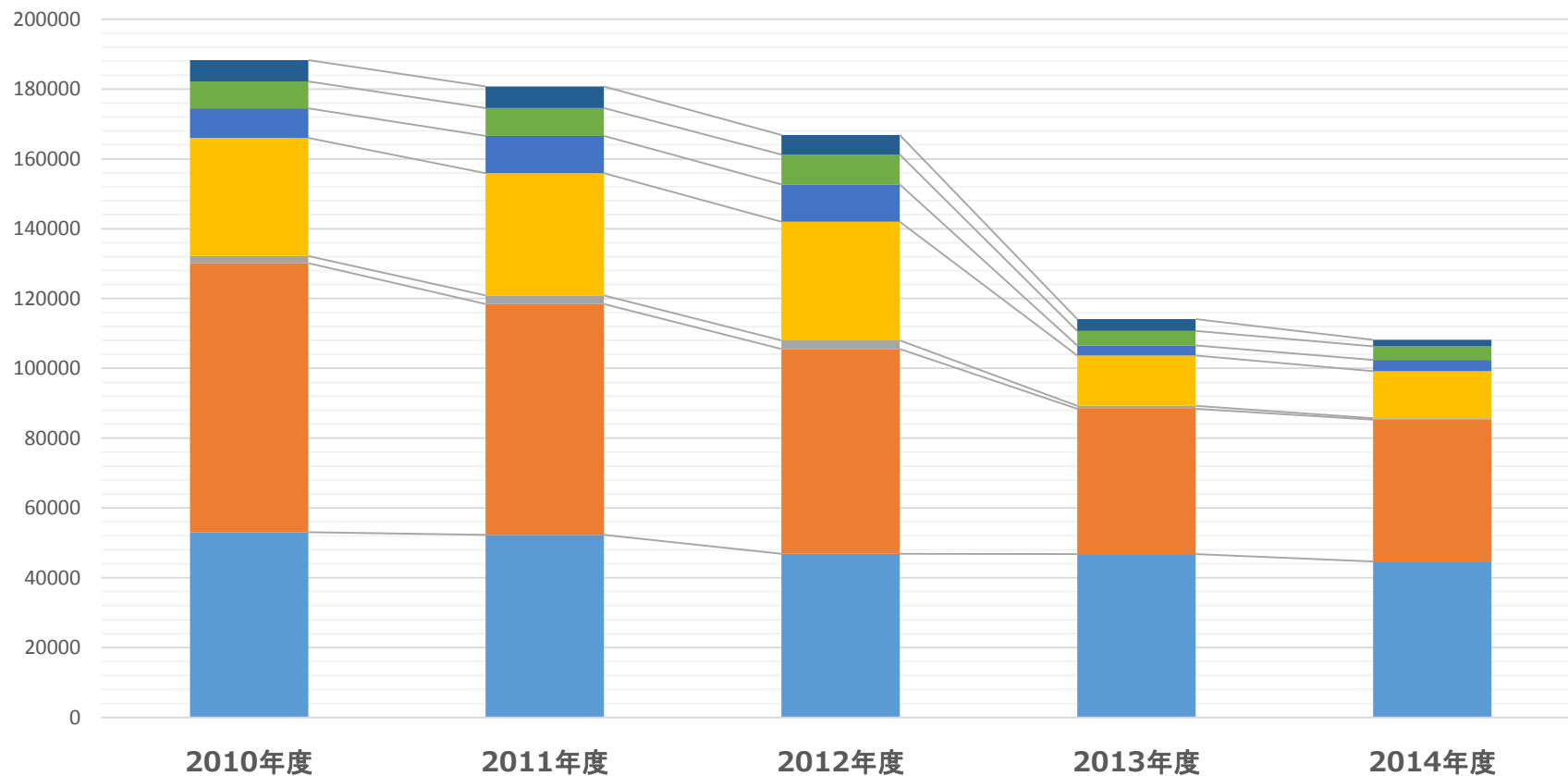
	書誌の件数
日本語	377685
英語	158413
中国語	112450
アルファベット系言語	106844
非アルファベット系言語	58891
その他の言語	31257
言語不明	46954
合計	892,494

流用書誌(言語別) 2010-2014 年度



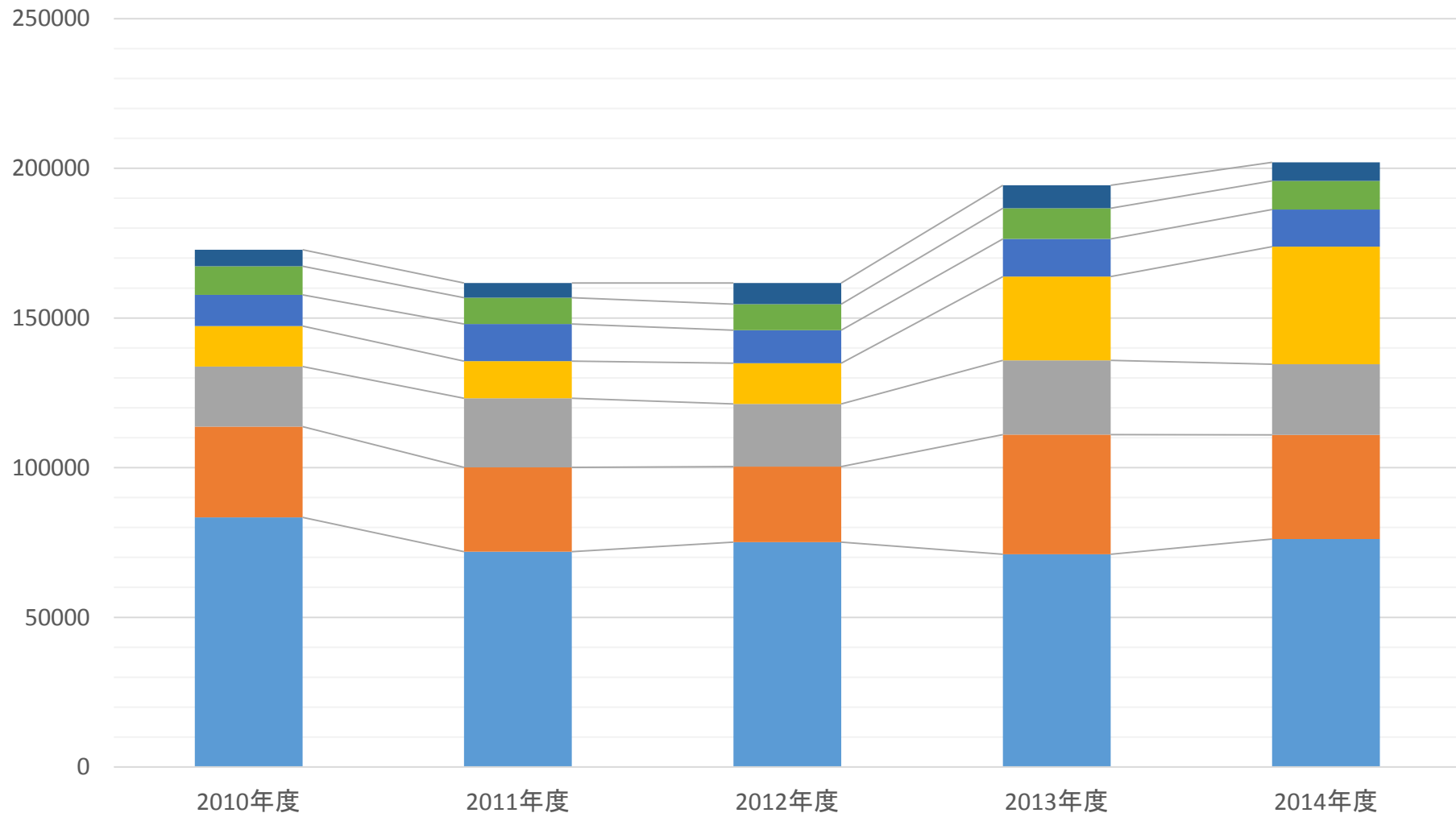
	書誌の件数
日本語	243687
英語	284098
中国語	8260
アルファベット系言語	130710
非アルファベット系言語	35921
その他	32286
言語不明	23218
	758,180

流用書誌(言語別) 2010-2014 年度



■ jpn ■ eng ■ chi ■ アルファベット系 ■ 非アルファベット系 ■ unknown ■ others

ORG書誌(言語別) 2010-2014 年度



■ jpn ■ eng ■ chi ■ アルファベット系 ■ 非アルファベット系 ■ unknown ■ others

ORG書誌(形態別)

2010-2014年度

(図書)	797272	89.331%
d:文字資料 (書写資料)	22493	2.520%
h:マイクロ形態	19345	2.168%
c:楽譜 (印刷)	13765	1.542%
v:ビデオレコード	12673	1.420%
s:録音資料 (音楽)	11431	1.281%
a:地図資料	8135	0.911%
w:機械可読データファイル	3199	0.358%
k:静止画像 (非投影)	2677	0.300%
t:録音資料 (非音楽)	931	0.104%
e:地図 (書写資料)	253	0.028%
b:文字資料 (点字)	183	0.021%
f:楽譜 (書写資料)	60	0.007%
g:静止画像 (投影)	53	0.006%
x:3次元工芸品、自然の事物	14	0.002%
y:キット	6	0.001%
m:映画	4	0.000%
合計	892494	100.000%

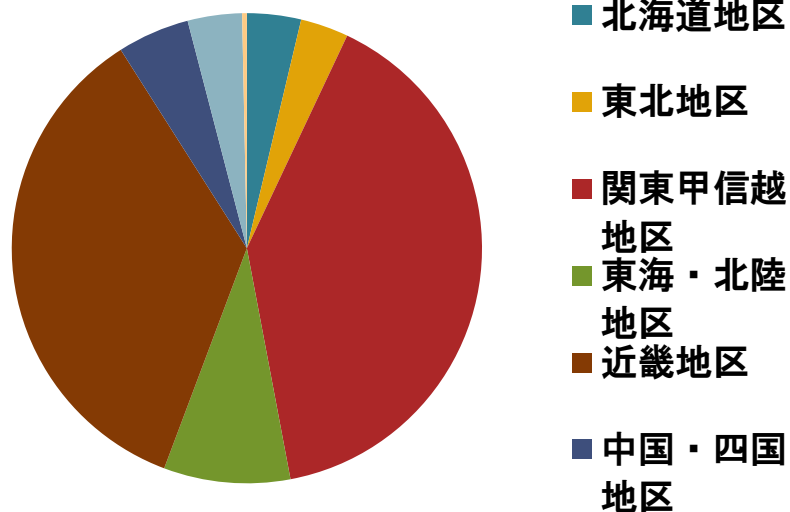
3. オリジナル書誌データの分析（流用書誌との比較）

流用書誌(形態別) 2010-2014年度

(図書)	720200	94.991%
h:マイクロ形態	20940	2.762%
c:楽譜（印刷）	5535	0.730%
a:地図資料	4772	0.629%
s:録音資料（音楽）	3058	0.403%
v:ビデオレコード	2416	0.319%
w:機械可読データファイル	482	0.064%
t:録音資料（非音楽）	344	0.045%
k:静止画像（非投影）	340	0.045%
d:文字資料（書写資料）	55	0.007%
b:文字資料（点字）	25	0.003%
g:静止画像（投影）	6	0.001%
f:楽譜（書写資料）	2	0.000%
y:キット	2	0.000%
e:地図（書写資料）	1	0.000%
x:3次元工芸品、自然の事物	1	0.000%
m:映画	1	0.000%
合計	758180	100.000%

所蔵1件書誌の作成数 （地域別）

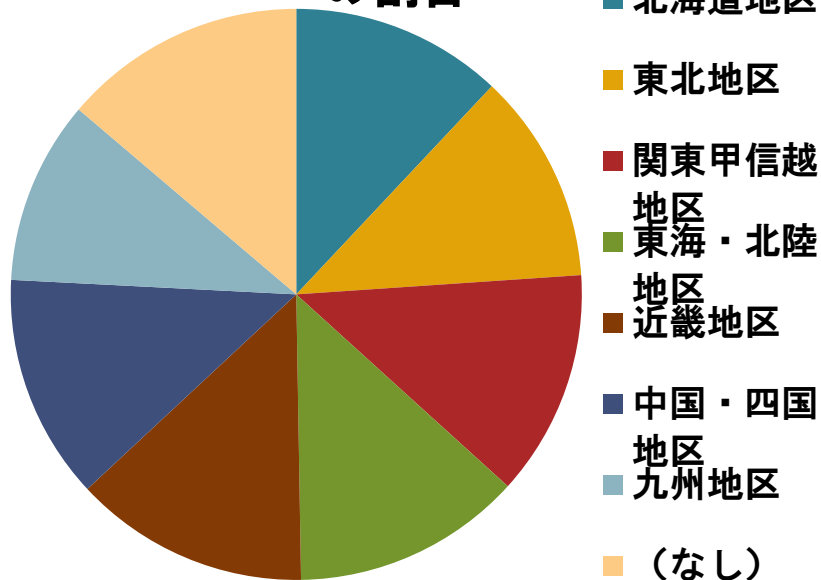
所蔵1件書誌の割合



地区名	所蔵1件書誌数	全作成数
北海道地区	24076 (3.7%)	35431
東北地区	21415 (3.3%)	31744
関東甲信越地区	259305 (40.0%)	357689
東海・北陸地区	56356 (8.7%)	76462
近畿地区	228570 (35.3%)	302894
中国・四国地区	32107 (5.0%)	44462
九州地区	24208 (3.7%)	41122
(なし)	2101 (0.3%)	2690
計	648138 (100%)	892494

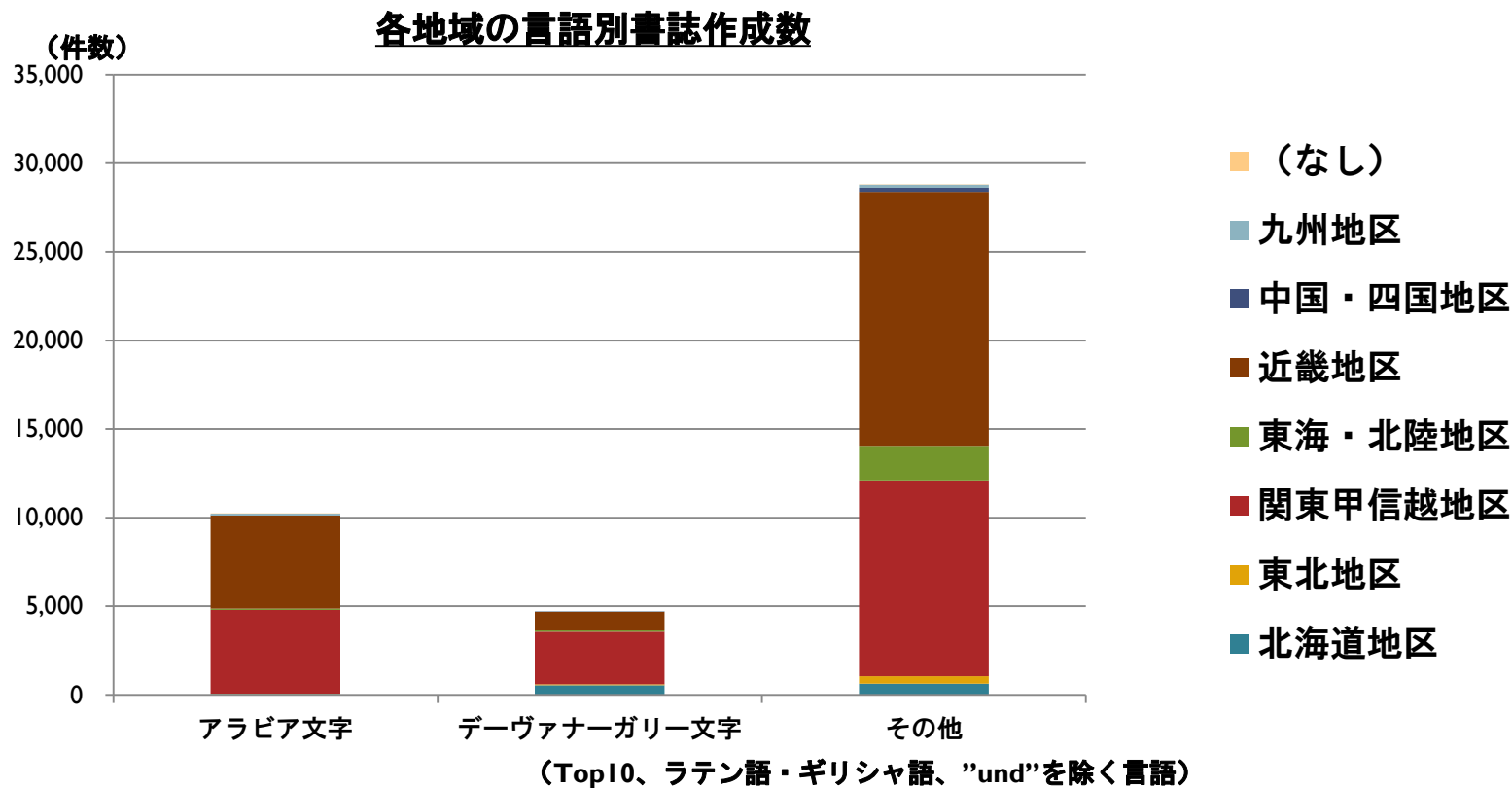
ORG書誌総数に対する所蔵1件書誌の割合ベースでの比較（地域別）

ORG総数に対する所蔵1件書誌の割合



地区名	所蔵1件書誌数	全作成数	割合
北海道地区	24076	35431	68.0%
東北地区	21415	31744	67.5%
関東甲信越地区	259305	357689	72.5%
東海・北陸地区	56356	76462	73.7%
近畿地区	228570	302894	75.5%
中国・四国地区	32107	44462	72.2%
九州地区	24208	41122	58.9%
(なし)	2101	2690	78.1%
計	648138	892494	

言語別書誌作成数の概要 （地域別）

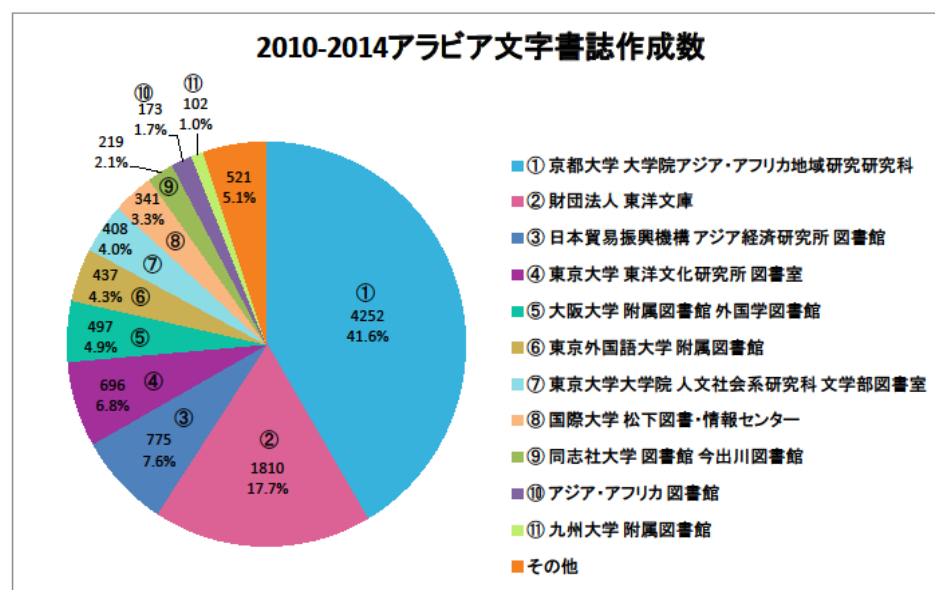


言語別書誌作成数の概要 （地域別）

地区名	アラビア文字	デーヴァナーガリー文字	その他
北海道地区	55 (0.5%)	554 (11.8%)	632 (2.2%)
東北地区	13 (0.1%)	50 (1.1%)	420 (1.5%)
関東甲信越地区	4723 (46.2%)	2959 (62.9%)	11049 (38.4%)
東海・北陸地区	70 (0.7%)	73 (1.6%)	1947 (6.8%)
近畿地区	5259 (51.4%)	1054 (22.4%)	14333 (49.8%)
中国・四国地区	4 (0.0%)	2 (0.0%)	230 (0.8%)
九州地区	105 (1.0%)	16 (0.3%)	177 (0.6%)
（なし）	2 (0.0%)	0 (0.0%)	9 (0.0%)
計	10231 (100%)	4708 (100%)	28797 (100%)

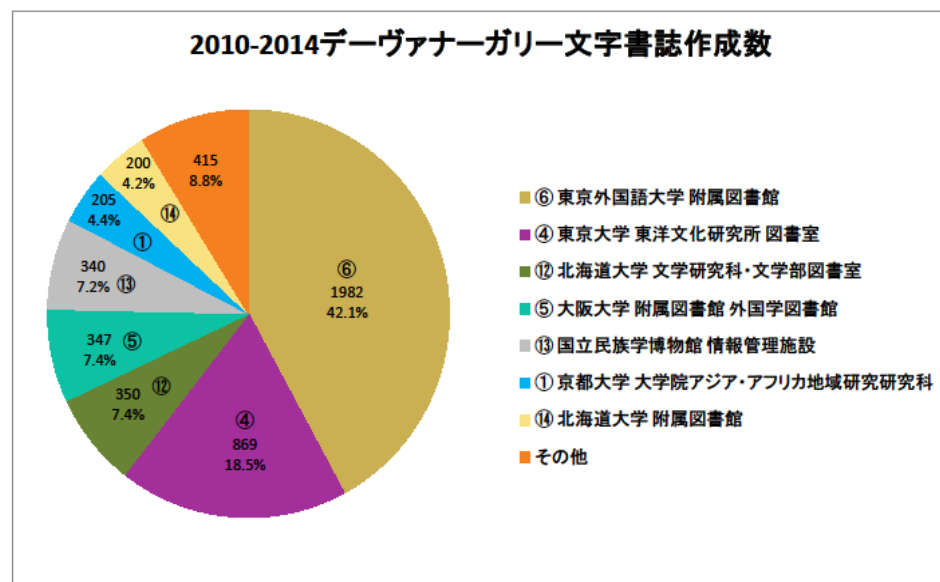
（Top10、ラテン語・ギリシャ語、"und"を除く言語）

アラビア文字書誌作成数 （地域別）



地区名	アラビア文字
北海道地区	55 (0.5%)
東北地区	13 (0.1%)
関東甲信越地区	4723 (46.2%)
東海・北陸地区	70 (0.7%)
近畿地区	5259 (51.4%)
中国・四国地区	4 (0.0%)
九州地区	105 (1.0%)
(なし)	2 (0.0%)
計	10231 (100%)

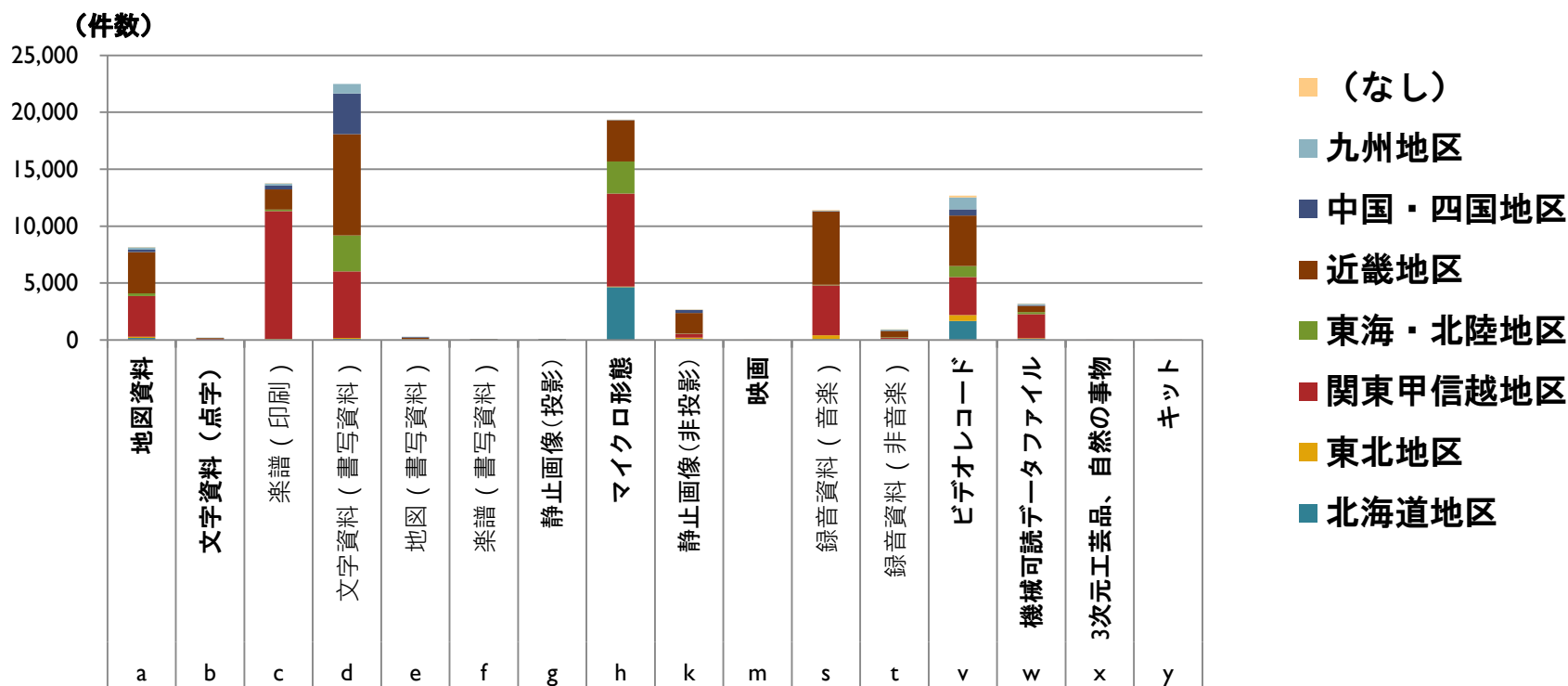
デーヴァナーガリー文字 書誌作成数（地域別）



地区名	デーヴァナーガリー文字 作成数 (割合)
北海道地区	554 (11.8%)
東北地区	50 (1.1%)
関東甲信越地区	2959 (62.9%)
東海・北陸地区	73 (1.6%)
近畿地区	1054 (22.4%)
中国・四国地区	2 (0.0%)
九州地区	16 (0.0%)
(なし)	0 (0.0%)
計	4708 (100%)

形態別書誌作成数の概要 （地域別）

各地域の資料種別書誌数



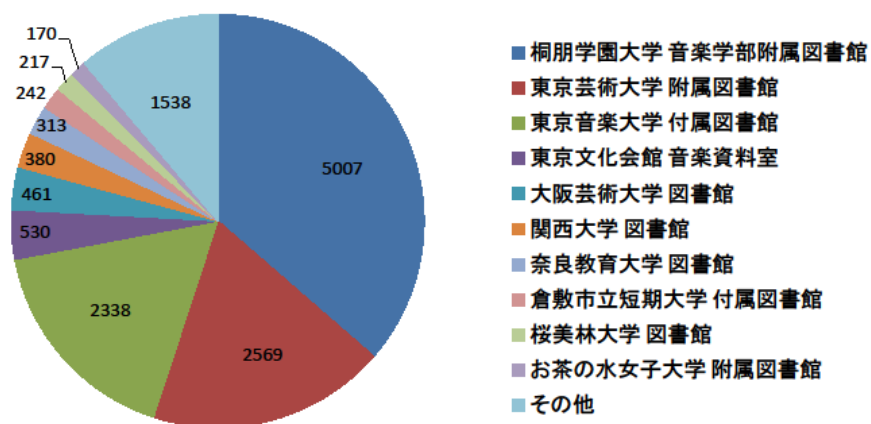
形態別書誌作成数の概要 （地域別）

	地図資料	文字資料 （点字）	楽譜 （印刷）	文字資料 （書写資料）	地図 （書写資料）	楽譜（書 写資料）	静止画像 （投影）	マイクロ 形態	静止画像 （非投影）	映画	録音資料 （音楽）	録音資料 （非音楽）	ビデオレ コード	機械可読 データ ファイル	3次元工芸 品、自然 の事物	キット
北海道地区	172	0	49	112	0	0	4	4634	73	0	73	50	1666	108	0	0
東北地区	123	0	49	78	12	1	2	69	138	1	340	21	526	49	0	0
関東甲信 越地区	3562	137	11221	5834	36	0	17	8170	340	3	4397	106	3329	2124	2	2
東海・北 陸地区	228	7	147	3164	29	50	2	2815	36	0	50	56	974	177	0	0
近畿地区	3630	35	1756	8898	135	4	19	3607	1782	0	6437	565	4426	542	12	3
中国・四 国地区	229	0	340	3565	39	5	2	5	281	0	37	21	552	50	0	0
九州地区	190	4	201	842	2	0	7	44	24	0	48	91	1062	146	0	1
（なし）	1	0	2	0	0	0	0	1	3	0	49	21	138	3	0	0
計	8135	183	13765	22493	253	60	53	19345	2677	4	11431	931	12673	3199	14	6

形態別書誌作成数（地域別）

1) 楽譜

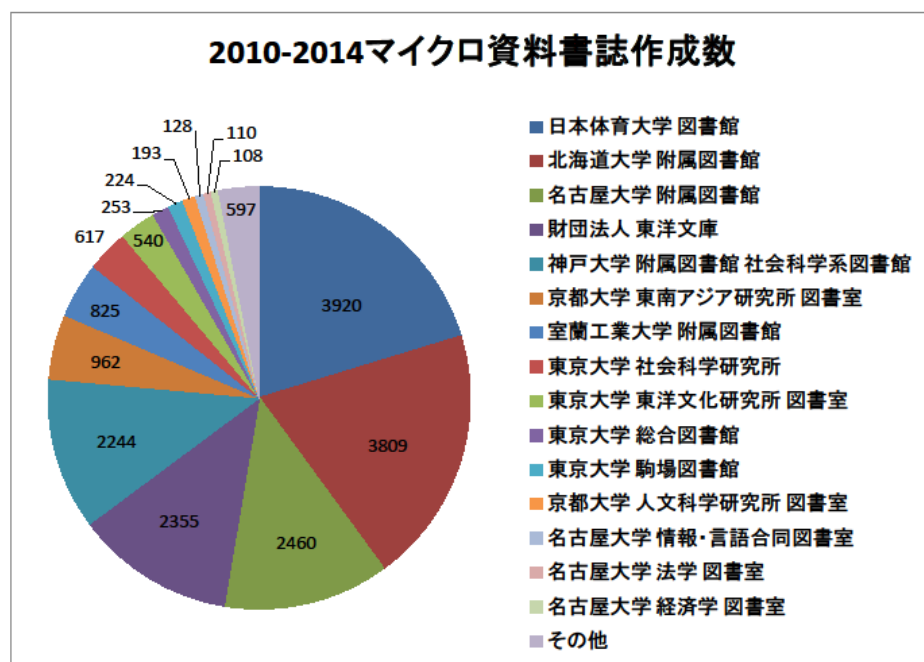
2010-2014楽譜書誌作成数



地区名	楽譜(印刷)
北海道地区	49 (0.4%)
東北地区	49 (0.4%)
関東甲信越地区	11221 (81.5%)
東海・北陸地区	147 (1.1%)
近畿地区	1756 (12.8%)
中国・四国地区	340 (2.5%)
九州地区	201 (1.5%)
(なし)	2 (0.0%)
計	13765 (100%)

形態別書誌作成数（地域別）

2) マイクロ資料

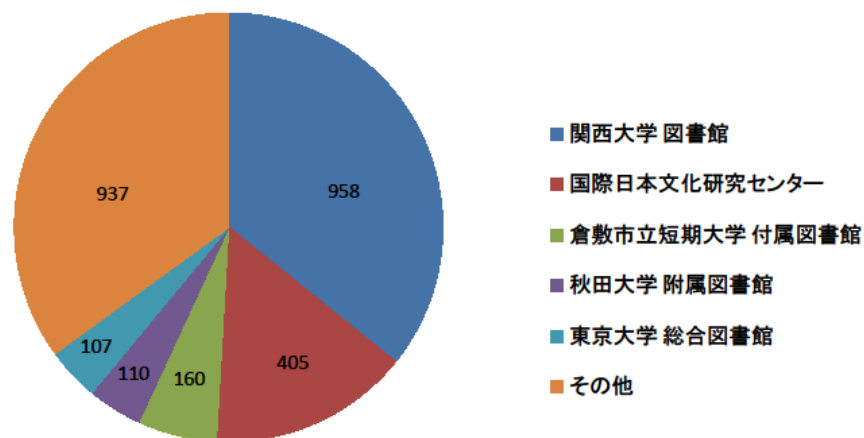


地区名	マイクロ形態
北海道地区	4634 (24.0%)
東北地区	69 (0.4%)
関東甲信越地区	8170 (42.2%)
東海・北陸地区	2815 (14.6%)
近畿地区	3607 (18.6%)
中国・四国地区	5 (0.0%)
九州地区	44 (0.2%)
(なし)	1 (0.0%)
計	19345 (100%)

形態別書誌作成数（地域別）

3) 静止画像（非投影）

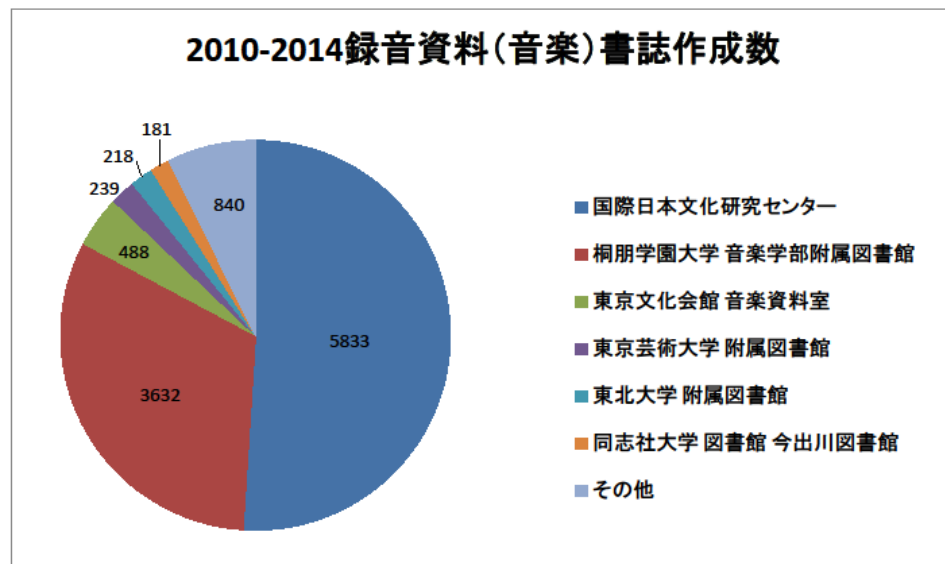
2010-2014静止画像（非投影）書誌作成数



地区名	静止画像（非投影）
北海道地区	73 (2.7%)
東北地区	138 (5.2%)
関東甲信越地区	340 (12.7%)
東海・北陸地区	36 (1.3%)
近畿地区	1782 (66.6%)
中国・四国地区	281 (10.5%)
九州地区	24 (0.9%)
(なし)	3 (0.1%)
計	2677 (100%)

形態別書誌作成数（地域別）

4) 録音資料（音楽）



地区名	録音資料（音楽）
北海道地区	73 (0.6%)
東北地区	340 (3.0%)
関東甲信越地区	4397 (38.5%)
東海・北陸地区	50 (0.4%)
近畿地区	6437 (56.3%)
中国・四国地区	37 (0.3%)
九州地区	48 (0.4%)
(なし)	49 (0.4%)
計	11431 (100%)

これからも作成を続けると考えられる 日本語書誌の内容は何か？

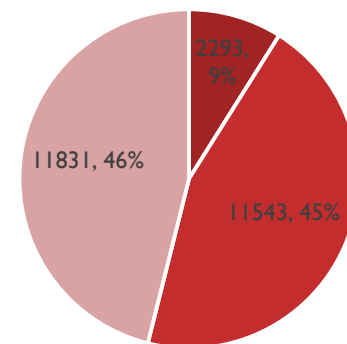
調査対象年代：2014年度入力のうち
YEAR2000～2014 25,667件

形態、年代、ISBN、出版者の種類

形態別と出版者別

	作成種類	データ数	
特殊資料	ビデオレコード	1404	
	楽譜(印刷)	355	
	機械可読データファイル	246	
	録音資料(音楽)	100	
	録音資料(非音楽)	18	
	静止画像(非投影)	11	
	マイクロ形態(microform)	5	
	地図資料	151	
	楽譜(書写資料)	1	
	地図(書写資料)	1	
	文字資料(点字)	1	
	非刊行物など	自治体	3109
		大学	2264
		団体	1848
個人		723	
協会		579	
研究所		386	
学会		331	
展覧会カタログ		439	
企業		254	
機構		226	
博物館		199	
研究会		197	
委員会		183	
官公庁		174	
教科書		126	

非刊行物など	出版者不明	128
	宗教団体	104
	学校	67
	NPO	55
	図書館	38
	放送	30
	国立機関	37
	文学館	18
	国会図書館	8
	私製	7
	新聞社	7
	文庫	6
	MARCより先に作成?	出版社
	総計	25667

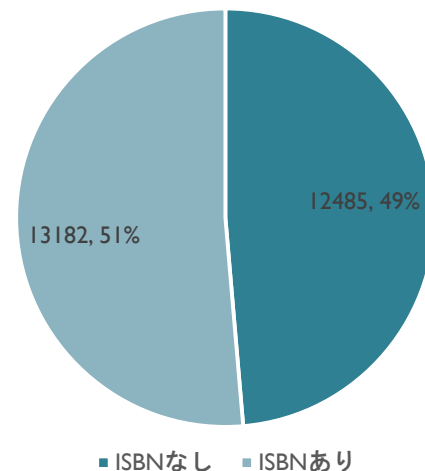


■ 特殊資料 ■ 非刊行物など ■ 出版社

ISBNの有無、年代

ISBNなし	12485
ISBNあり	13182
総数	25667

年代	データ数
2---	2
20--	186
200-	37
2000	186
2001	235
2002	234
2003	257
2004	241
2005	242
2006	250
2007	301
2008	325
2009	335
201-	77
2010	486
2011	615
2012	928
2013	2539
2014	15829
2015	2361
2016	1
総計	25667



- ・ 形態は全体の分布とは異なり、ビデオ、データなどが多い。
- ・ 出版者から見る内容の分布は自治体刊行物、大学などの学術出版物が多い。
- ・ オリジナル作成のうち半数近くがISBNを持たない。
- ・ 年代は入力年と同じものが一番多いが、それ以前の年代でも書誌を作成しなくてはならないものが結構ある。

MARCの有無

オリジナル2014のうち、JPMARCがあるもの

種類	件数
出版社	5237
大学	277
協会	111
教科書	82
楽譜(印刷)	80
団体	67
研究所	48
自治体	30
機構	26
学会	17
ビデオレコード	15
研究会	14
美術館	11
図書館	9
博物館	7
音楽	6
地図資料	6
機械可読データファイル (computer file)	5
個人	5
企業	4
国会図書館	4
官公庁	3
文庫	3
宗教団体	2
録音資料(非音楽)	2
NPO	1
学校	1
展覧会	1
不明	1
文学館	1
総計	6076

オリジナル2014のうちTRCMARCがあるもの

種類	件数
出版社	5910
大学	254
協会	102
団体	92
楽譜(印刷)	65
研究所	42
学会	26
機構	22
自治体	20
教科書	17
図書館	12
研究会	11
国会図書館	7
官公庁	6
美術館	6
地図資料	5
博物館	5
個人	4
企業	3
展覧会	2
文学館	2
NPO	1
音楽	1
機械可読データファイル (computer file)	1
総計	6616

※MARCデータは1班調査の2014年、オリジナル2014は2014年度

所蔵館 1 館のみの日本語書誌

YEAR	件数
1987	461
1988	375
1989	398
199-	31
1990	352
1991	371
1992	344
1993	294
1994	234
1995	220
1996	174
1997	140
1998	205
1999	194
2---	2
20--	40
200-	23
2000	157
2001	179
2002	188
2003	200
2004	179
2005	170
2006	176
2007	208
2008	242
2009	239
201-	42
2010	326
2011	354
2012	520
2013	1197
2014	3113
2015	628
総計	11976

種類	件数
団体	3925
出版社(東京)	1926
自治体	1229
大学	1215
出版者不明	849
個人	834
出版社(東京以外)	530
博物館等	291
展覧会カタログ	285
企業	196
官公庁	170
教科書	143
学校	128
児童書	109
年史	78
図書館	42
遺跡調査	26
総計	11976

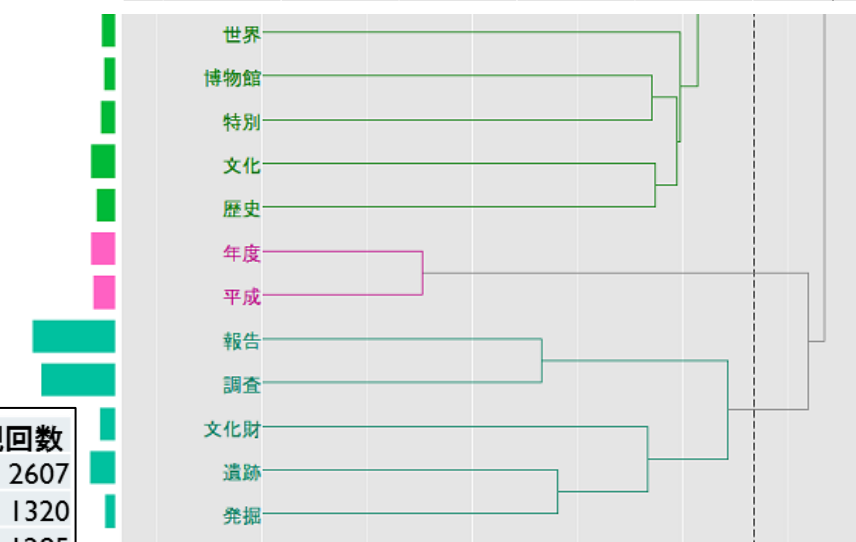
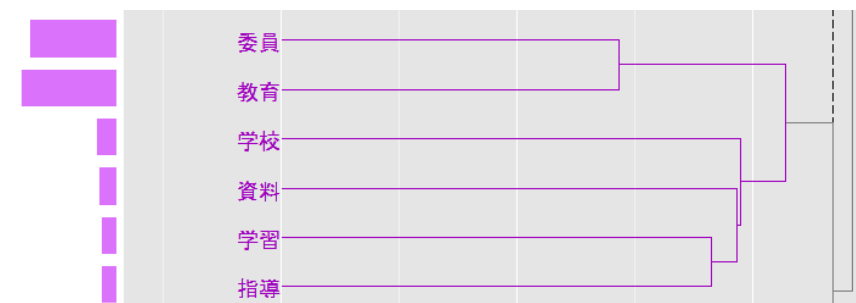
ISBN	件数
ISBNあり	2641
ISBNなし	9335
総計	11976

※日本語オリジナル書誌2014年度のうち、所蔵が1館のみのもの。

所蔵館 1 館のみの日本語書誌 タイトル分析



抽出語	出現回数
研究	2607
教育	1320
報告	1285
編集	1273
委員	1203
調査	1138
日本	793
記念	675
事業	551
社会	536



NACISIS-CAT/ILL参加館状況調査アンケート(2011.3) の分析

アンケートの記述部分にある各参加館の
自由意見から、業務の実態の問題を探る

5. 2011年アンケート分析

書誌調整への記述コメント	
内容	件数
目録スキル不足	11
時間がかかる	7
MARCの修正	6
マニュアル	6
解釈	6
調整負担	6
重複書誌	5
調整への提案	5
連絡	5
作成困難	4
調整のメリット	4
調整履歴	4
発見館修正可	4
PTBL	3
修正履歴	3
目録規則	3
Q&A	2
古い書誌の調整	2
作成館にないVOL	2
修正の連絡	2
修正館の責任	2
修正館不明	2
修正指針	2
多巻ものの解釈	2
問い合わせルール	2

全体への記述コメント	
内容	件数
目録スキルの維持	10
目録の研修	9
小規模館へのサポート	6
コーディングマニュアル	5
Q&A	4
目録スキルの不足	4
MARC	3
レコード調整	3
使いやすいシステム	2
視聴覚資料	2
書誌重複	2
品質の低下	2
目録の質	2
目録作業の簡素化	2

目録スキルの
不足や維持を
訴える声多数

訪問インタビュー

言語、特殊形態資料のオリジナル書誌作成の特徴から、数館を選定して訪問



どんな資料をどんなスキルを持って、書誌作成しているか

調査→分析→次の疑問→調査館選定
→調査 の流れ

インタビュー1 北海道地区 言語の特徴

- ・ロシア語オリジナル書誌作成が日本で一番多い
- ・ロシア語以外にも多言語
- ・全学の書誌作成を集中
- ・遡及入力も継続
- ・常勤職員、非常勤職員全員がオリジナル書誌作成のスキルを持つ
- ・地域講習会を開催するスキル

・自館にとって難しい書誌
→デヴァナーガリー文字やアラビア文字で書かれた資料。読めなくても書誌を作る。

高い言語のスキルのある2つの大学双方から、「非アルファベット文字資料」の参考になっているのは、外国語の扱いの多い大学の書誌やサイトという話を聞く。
その大学にとって難しい書誌は何か？



国大A

人事交流
(目録スキルも)



道内国大

- ・英語オリジナル書誌作成率が高い
- ・英語以外にも言語種類は多い
- ・遡及入力は完了
- ・JPMARCを長く使用していた
- ・非常勤職員でオリジナル書誌作成のスキルを持っているのは国大Aで遡及入力担当をしていた人

国大A勤務の後
私大Cへ
(目録スキルも)

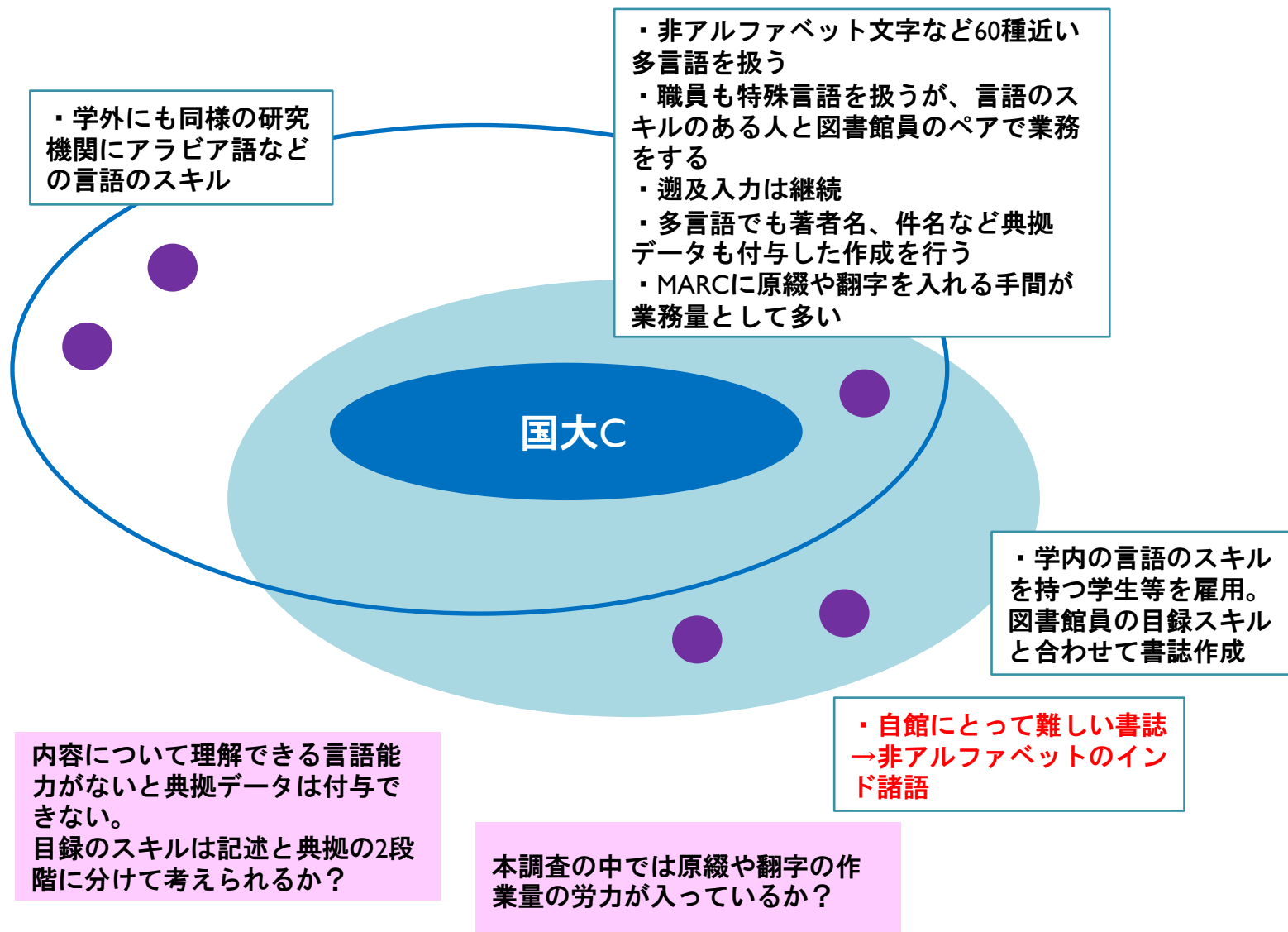


私大C

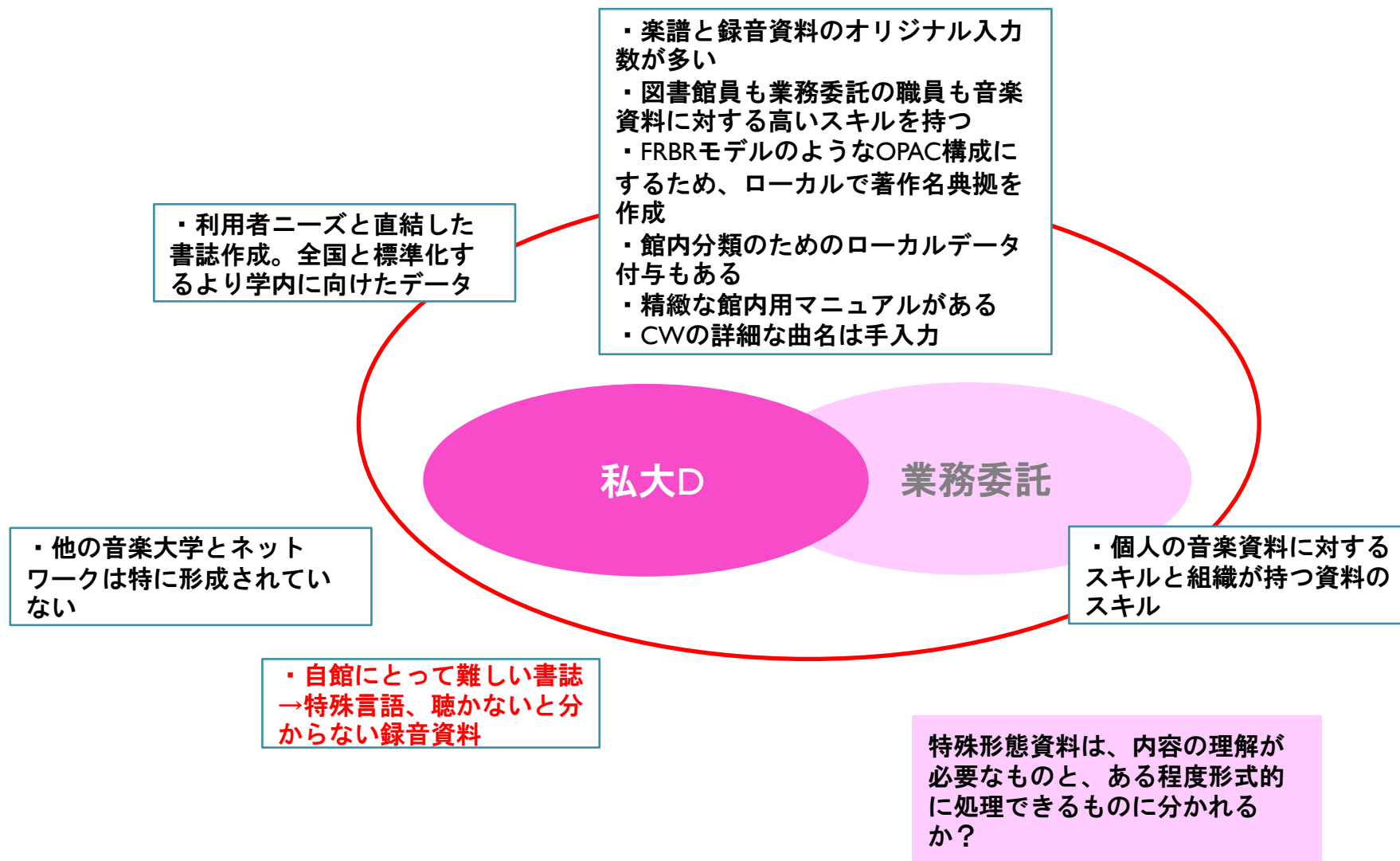
・自館にとって難しい書誌
→タイ文字

道内には大型遡及を行ってきた人材を中心に目録スキルのネットワークが存在するか？ 他の地域にもあるのか？

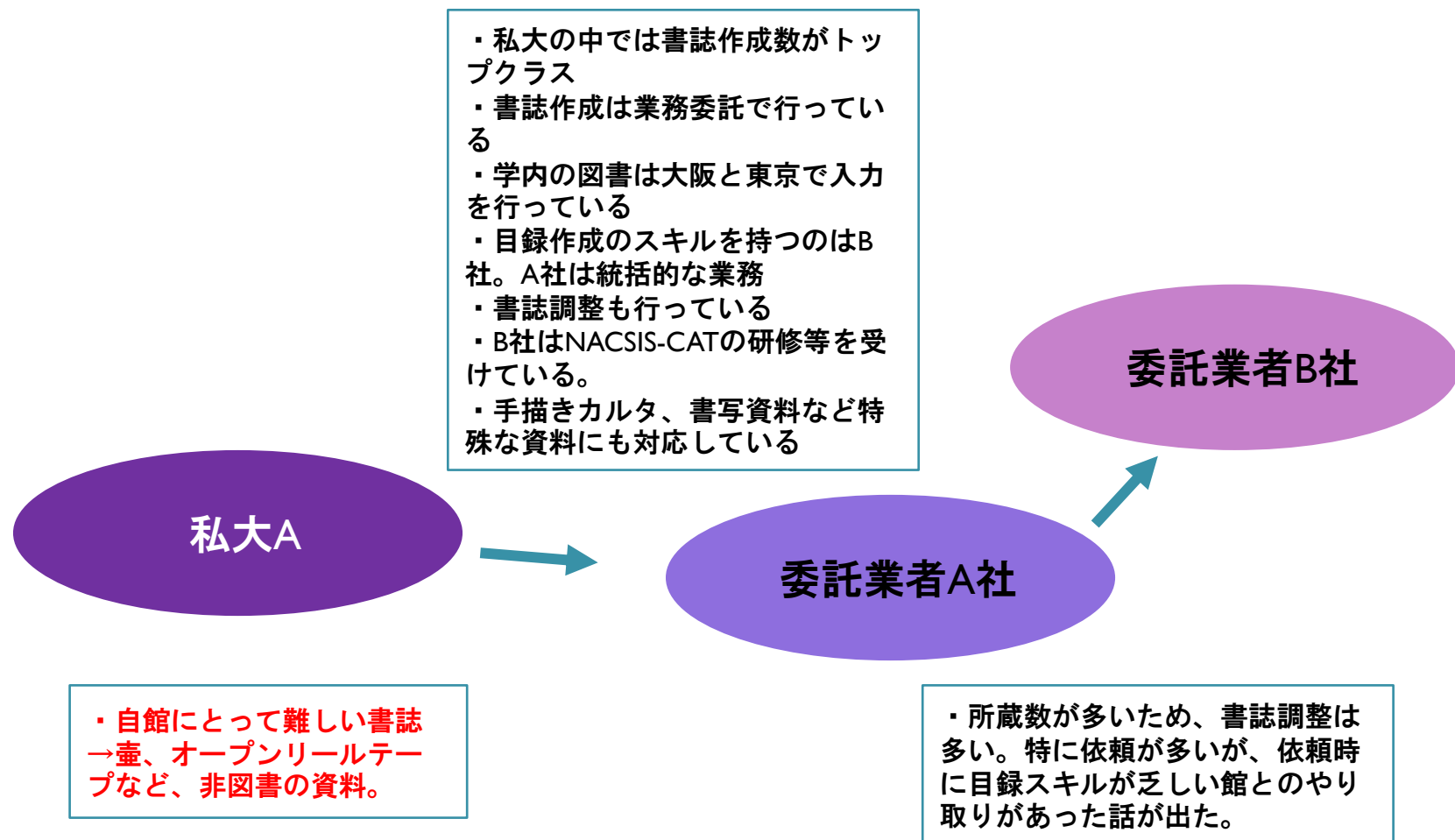
インタビュー2 関東地区 言語の特徴



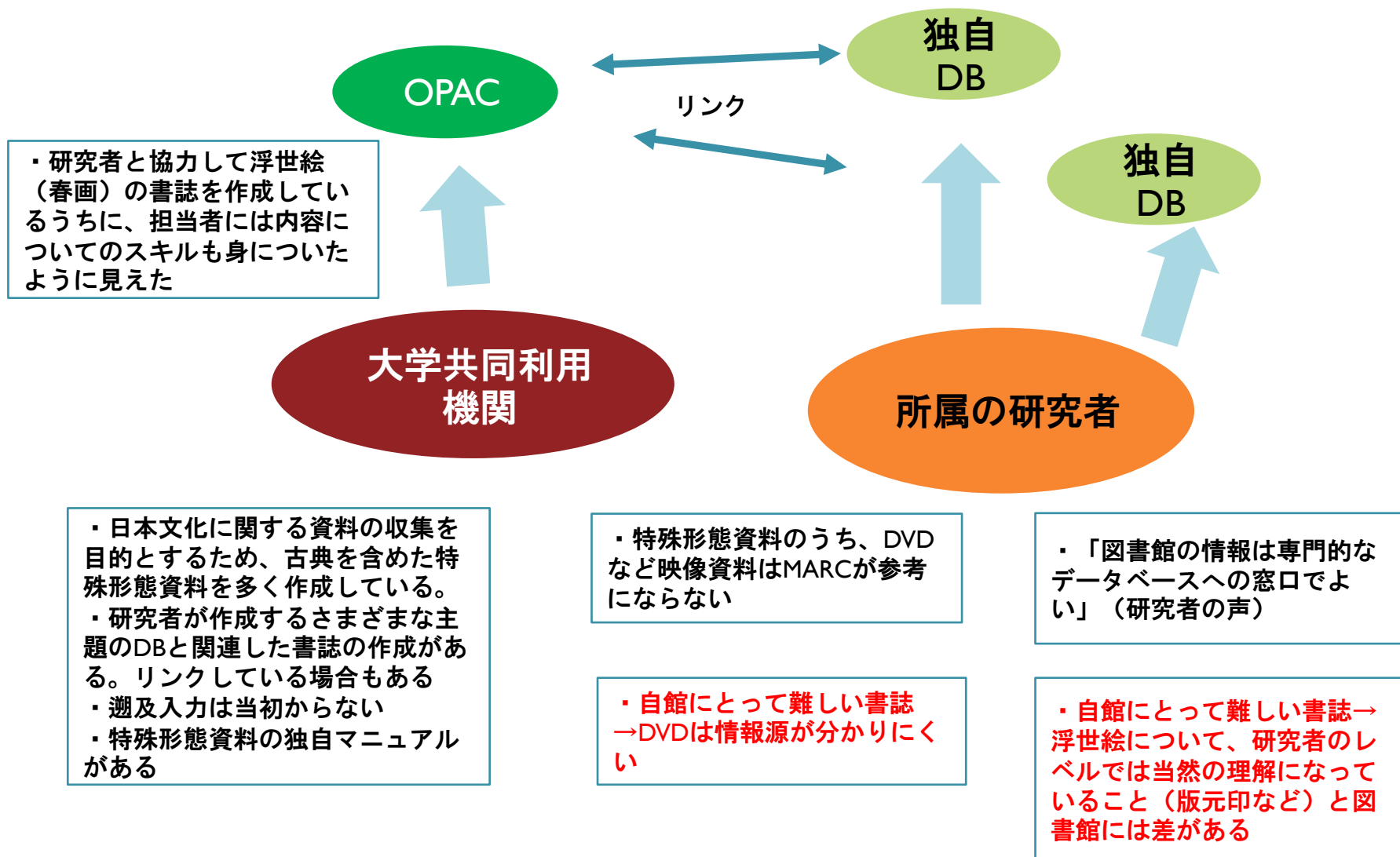
インタビュー3 関東地区 特殊形態資料の特徴



インタビュー4 関西地区 業務委託



インタビュー5 関西地区 特殊形態資料



インタビューまとめ スキルについて

最初のスキルのイメージ

- ・ 目録作成のスキル
- ・ 言語のスキル
- ・ 特殊形態資料のスキル



調査中に変化したイメージ

- ・ 目録スキル（記述） 形式に従って転記できる
- ・ 目録スキル（典拠） 内容の識別や判断ができる
- ・ 組織のスキル 目録スキルのある集団が持つ教育力
- ・ 言語のスキル 内容の識別や判断ができる
- ・ 特殊形態資料のスキル（形式） 形式に従って転記できる
- ・ 特殊形態資料のスキル（内容） 内容の識別や判断ができる

インタビューまとめ スキルについて

形式に従って転記できる

- ・ 目録スキル（記述） 特殊でない言語の図書
- ・ 特殊形態資料のスキル（形式） ビデオ資料、マイクロ

できるだけ各組織で維持できる方がよい。
他のメタデータ作成などにも応用可能。

内容の識別や判断ができる

- ・ 目録スキル（典拠）
- ・ 言語のスキル 非アルファベット文字など
- ・ 特殊形態資料のスキル（内容）

書写資料、楽譜など

専門性が高く、書誌作成機関が限定される。
図書館外にあることも多い。

目録スキルのある集団が持つ教育力

- ・ 組織のスキル

書誌調整のやり方、コーディングマニュアルに載っていない部分などを埋めるスキル。
集団的に内容の識別や判断を行うことができる。
このスキルがない職場をつなぐことができないか。

インタビューまとめ 書誌調整と書誌階層

書誌調整

- ・調整履歴があるとよい。
- ・文法チェックのツールがあるとよい。書誌作成の際にCATのシステムに基本的なチェックができると便利。

書誌階層

- ・親書誌に中位を設けず、すべてリンクさせてはどうか。
- ・中位の書誌もPTBLに書き、子書誌もリンクする形（3階層）でも良いのではないか。
- ・本タイトルが共通していてサブタイトルが違うものが後日出版された場合、本タイトルを親書誌にわざわざまとめなくてもよいのでは。

地域的な取り組み（事例紹介）



事例1：北海道地区（大規模大学）の例

- ・ 人事交流による目録スキルの注入
→ 目録を経験した職員が道内で異動した際、異動先の職員にノウハウを指導
- ・ 非常勤職員の転出（主として札幌周辺）
→ 大規模大学でトレーニングを受けた職員が、任期後に小・中規模大学に採用されることでスキルを持ち込む場合も

画像の出典：オリオンツアーウェブサイト
<http://www.orion-tour.co.jp/hokkaido/>

地域的な取り組み（事例紹介）



大学

事例2：関東甲信越地区（単科大学）の例

卒業

- ・ 自大学の卒業生を優先的に採用することで、専門性を担保
- ・ 目録以外にもそのスキルを活用


図書館



採用



地域的な取り組み（事例紹介）

- 
- A map of Japan is shown in light green. Four callout boxes with colored borders (red, blue, green, yellow) are connected to the map by dashed lines, pointing to different regions. The red box is in the north, the blue box is in the northeast, the green box is in the southwest, and the yellow box is in the east.
- ・ 公立・私立大学にも積極的に講師依頼を打診。講師のスキルアップを
 - ・ 担当館を輪番制に
 - ・ 講師の構成（経験者、初心者）をバランスよく配置
 - ・ 講師ガイダンスを実施

- ・ 県立図書館で経験を積んだ方が採用された例
- ・ 非常勤の人事交流？

- ・ 地域協議会間で目録講習の委員会を設置
- ・ 講習会の成果を分析し、報告書として共有

- ・ 講習会参加者間でのSNSの活用
- ・ 近隣の大学へ講習会講師の派遣依頼
- ・ 地域協議会間で研修を共催

まとめ 1

0. 予備調査→オリジナル書誌全てを集中化して作成することは現実的ではない

1. 書誌作成時間調査→書誌作成の所要時間は
ORG：流用 = 1：0.88

2. 全体の書誌データ→2010～2014年に対して行う。オリジナル書誌データの所蔵1館の割合は7割以上

3. オリジナル書誌の分析→言語別ではオリジナル書誌作成館の半数以上が多言語書誌を作成するグループ。形態別ではビデオレコードを除き、各形態書誌の1%以上を作成する館だけで全体の8割以上を作成。

まとめ 2

4. ORG書誌の内容分析→MARCがないと思われるもの、1館しか所蔵のないものは**研究や調査の報告書**などが多い
5. 2011年アンケート分析→**書誌作成スキルの不足や維持**を訴える声
6. インタビュー調査によるスキル分析→
目録作成は**複数のスキル**で行われている。スキルを持っている人の立場は**多種多様**。
7. オリジナル書誌作成の地域分析→地域単位などの**ネットワーク化**も考えられる

まとめ 3

現在作成しているオリジナル書誌

- 言語は半数以上の機関が多言語を扱っている。
- 形態は作成館の集中が見られる。
- 日本語は研究や調査の報告書が多い。

作成館の目録業務の実態

- 内容に関わる高度なスキルがいる目録作成は、図書館外との協力体制がある場合も。
- スキルを持つ人は非常勤職員、学生アルバイト、業務委託など立場が多様である。
- 目録スキル維持には地域での取り組みに拠る部分も大きい。

残課題

1. 運用再構築に対するデータ提供までを今回の報告とする予定。再構築モデルまでは検討できていない。
2. スキル検討のうち、地域のネットワークについて実地調査を行っていない。
3. 書誌作成運用見直しの階層構造について、現場の意見は集約したが判断が下せるところまで調査していない。今後、書誌調整の中身分析、参加組織に対して質問紙調査を行うなどが考えられる。